

祈り

■前回までの流れ

昨年9月と11月の2回にわたり、祈りの第一テーマ「誰に対して祈るのか」を学び、「父なる神に祈る」というのが、聖書の教えであるということがわかりました。イエス様は明確に父に祈るように教え、その教えを受けた使徒たちも明確に父なる神に祈っています。

昨年12月、そして今年に入って1月と2月、合わせて3回にわたり、祈りの第二テーマ「主イエス・キリストの御名によって」祈るとはについて学びました。

主イエス・キリストは、「わたしの名において」父に求めるように、と言われました。そのため、私たちは、「天の父なる神様」という呼びかけで祈りを始め、「主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という結語で祈りを締めくくります。

「主イエス・キリストの御名によって」というこのことばには、どのような意味があるのでしょうか。

1. 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、イエスへの愛と信仰の表明です。この愛と信仰を父なる神は大変喜ばれ、私たちの祈りに答えてくださいます。
 - (1) イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じること
 - (2) 神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じること
2. 「主イエス・キリストの名によって」祈るとは、大祭司なるイエスを通して神に祈るということです。
 - (1) 私たちは試みに弱く、失敗しやすい者ですが、イエスは私たちの弱さをよくわかってくださいます。イエスは私たちのために神の御前でとりなしをしてくださる大祭司です。
 - (2) イエスが代わって祈るのは、違います。私たちは、イエスがとりなしてくださるから、大胆に神に近づくことができるのです。
3. 「主イエス・キリストの名によって」祈ることは、私たちが祝福を受け取るようにと神が定めた通り道です。神は、イエス・キリストにあって天の霊的祝福を与えてくださいます。霊的祝福とは、聖霊を受けることによって受け取ることでできる祝福とも言えます。次の4つです。
 - (1) 神の子となるように選ばれた
 - (2) 罪の赦しを受けている
 - (3) 一つに集められる
 - (4) 御国を受け継ぐ

3月は、聖書フォーラムの開所式のため、祈りの学びはお休みでしたので、今回から第三テーマ「聖霊の助けによる祈るとは」に入ります。

■第3のテーマ「聖霊の助けによる祈りとは」 ① 聖霊とは
このテーマは2回に分けて、まず今回「聖霊とは」、次回「聖霊の助けによる祈りとは」というサブ・テーマで学びます。

1. 聖書の用語

- (1) **父なる神** : 神、ヤハウェ (主)、 父、父なる神
注:「エホバ」は英語訳聖書での表記による
- (2) **子なる神** : 主の使い、人の子のような方、メシア (◻油注がれた者)
子、ダビデの子、神の子、キリスト (◻油注がれた者)、イエス、ナザレのイエス、
主イエス・キリスト
- (3) **聖霊なる神** : 神の霊、聖霊、御霊
- (4) 天使、御使い、神の子ら
 - ① 聖なる天使、選ばれた天使
 - ② 墮天使
 - サタン、悪魔、悪い者、この世の支配者
 - サタンの使い、悪霊、汚れた霊

2. 聖霊とはどういうお方でしょうか

- (1) ヨハネ 14 : 16 聖霊は、信者にとっては、「もうひとりの助け主」と呼ばれます。
 - ① イエスが一人目の助け主です。
 - ② 聖霊は、信者にとって、イエスと同じようなもうひとりの助け主です。
 - ③ イエスが天に昇っても、信者はひとり残されることはありません。聖霊がわたしたち一人ひとりの中に住んでくださって、助けてくださいます。
 - ④ 聖霊は、私たちの弱さや苦しみを知っておられ、同情してくださり、慰め、力づけてくださるお方です。
 - ⑤ ヨハネ 14 : 26 聖霊は、使徒たちにすべてのことを教え、イエスが使徒たちに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます
- (2) ヨハネ 14 : 17 聖霊は、この世に対しては、「真理の御霊」と呼ばれます。
 - ① 世は、聖霊を受け入れることができません。聖霊を見もせず、知りもしないからです。
 - ② ヨハネ 15 : 26 聖霊は、イエスについてあかしします。
 - ③ ヨハネ 15 : 27 使徒たちもあかしします。初めからイエスといっしょにいたからです。
 - ④ 聖霊は、世に対して、次の表にあるように 3 つの項目について、誤りを認めさせます (ヨハネ 16 : 8~11)。

項目	この世の理解（誤り）	真実（真理）
罪	罪とは、神を認めないことと、そしてユダヤ人であればモーセの律法を守らないことである。 罪とは、社会の規範や倫理に違反することである。	罪とは、神が遣わしたイエスを信じないこと、そしてユダヤ人であれば、モーセの律法が預言してきたメシアであるイエスをメシアとして信じ受け入れないこと。そのほかの罪はすべて、十字架においてイエスが負って処理済み
義	イエスは義人でない。取税人や遊女の友。悪霊に憑かれた魔術師であり、民衆を惑わす者だ。	イエスが父のもとに行く＝死から復活し、天に昇って神の右の座につく イエスが義人であったことを神が証明した出来事だ。
さばき	十字架処刑は、イエスが神から呪われ、神に打たれたことの証拠だ。つまり、イエスは神によって裁かれたのである。	十字架で裁かれたのは、この世の支配者＝サタンである。サタンは「死の力を持つ者」、人の死の時期を決める権限を握っている。しかしイエスは十字架に至るまで神に従順を通し、自らのちを捨てた。その死によって、「死の力を持つ者＝サタン＝この世を支配する者」を無力化した。十字架以降は、信者の死はサタンの手中ではなく、イエスの支配の内にある。

- ⑤ ヨハネ 16:13 聖霊は、誤りを認めさせた人をさらに導いて、「真理＝神のみことば＝イエス・キリストの中に導き入れる」という段階に進ませます。この段階では、信者になっていますから、「世」ではなく、「あなたがた（＝イエスの弟子たち）」を、とります。
- ⑥ ヨハネ 17:15 聖霊は、信者をこの世から取り去るのではなく、悪い者（＝サタン）から守ります。
- ⑦ ヨハネ 17:16～17 聖霊は、信者を「この世」から聖別します。この世にしながら、この世の者ではない生き方をさせます。その原動力となるのは、「真理＝神のみことば＝イエス・キリスト」です。

3. 「助け主」は、「救い主」とは違います。

(1) 「助け主」の原語の意味は、「慰める者」です。

- ① 原語自体には「主」や「神」の意味はありません。
- ② 旧約聖書で人に使われる場合は、葬儀のときに弔問して遺族を慰める人や病

気の人を見舞う人を指します（Ⅱサム 10：3、詩 69：20）

- (2) 「救い主」の原語の意味は、「救助者」です。原語自体には「主」や「神」の意味はありません（ルカ 2：11、士師 3：9）
- (3) 人の救いという文脈では、順番から言うと、まず、「救い主」が登場します。救い主とは、信者を生み出すお方です。人を、罪人の立場から信者の立場に移す働きをしてくださいます。次に、「助け主」の登場です。先に述べたように、助け主とは、信者を慰める者です。

4. 救い主は、父なる神と子なる神です。

- (1) 父なる神は、人を救うというみこころを発し、そのための計画をお立てになりました。救いのみわざにおける、**本源的な救い主**です。
- (2) 子なる神、主イエス・キリストは、父のみこころを受けて、その通りに実行しました。救いのみわざにおける、**実行者としての救い主**です。
- (3) この関係は、旧約聖書においても示されています（イザヤ 45：15、63：9）
- (4) 新約聖書でも、救い主に関するこの関係が見られます。

聖書箇所		救い主	
		父なる神	イエス
①	使徒 5：31		○
②	使徒 13：23		○
③	I テモテ 1：1	○	
④	I テモテ 2：3～6	○	
⑤	Ⅱ テモテ 1：10		○
⑥	ピリピ 3：20		○

5. 助け主は、子なる神と聖霊なる神です。

- (1) 助け主は、先に述べたように、「慰める者」です。信者が自分の弱さや苦しみの中にあるときに慰めてくださるお方です。

● Ⅱ コリ 1：4、7：6 慰めの本源は父なる神

- (2) 一人目の助け主は、子なる神、主イエス・キリストです。
 - ① イエスは、天に昇ったあと、神の右の座に着かれました。
 - ② しかし、ただ座っておられるのではなく、「大祭司」として私たちを助けてくださっています（ヘブル 4：15～16）。
- (3) もうひとりの助け主が、聖霊なる神です。聖霊は私たち一人ひとりの中に住んでくださっていて、私たちの祈りを導いてくださいます。

今回は、聖霊の助けによる祈りについて、学びます。5月21日（日）の予定です。